

ASEAN 看護師育成会からの活動トピックス

# ハートフルナース

2013年4月号

## 「日本で看護師に」再挑戦 インドネシア4人の留学支援

日本の看護師資格取得を目指す、インドネシア看護師4名の医療法人偕行会への留学支援を行いました。経済連携協定（EPA）に基づく看護師候補生として来日するも、夢叶わず一旦帰国してからの再挑戦。

### 日本の高い医療技術を学びたい



医療法人偕行会（名古屋市中川区）にて試験勉強する4人

2013年2月5日から2週間、インドネシア看護師4名は、日本の看護師資格取得を目指すために再来日しました。彼らは、EPAに基づき来日したものの、夢叶わず一旦帰国していましたが、日本にて看護を学びたい気持ちを諦めきれず、今回のこの支援によって再挑戦を果たしました。「日本の医療や技術力は、インドネシアで有名です。その技術

力を実際に日本で看護師をしながら身に着きたい。」と彼らは話し、来日中勉強に明け暮れました。ただ日本語という言葉の壁が高く、勉強をしてもなかなか試験に対する不安が拭えないという気持ちもあるようでした。

今回の試験結果は3月25日に発表されましたが、残念ながら合格者は出ませんでした。しかし、今後彼らのように日本にて看護師を目指すインドネシア看護師を積極的に支援し、彼らの夢の現実と日本の看護師不足に貢献していけたらと思います。

### 日本で働きはじめて

2012年3月にASEAN看護師育成会支援のもと、日本の看護師資格を取得し、昨年12月より名古屋共立病院（名古屋市中川区）にて看護師として就労しているWIDIYANTI JULIARさん（以下、ウィディさん）。実際に日本にて看護師としての感想を伺ってみました。

「日本の看護師は、インドネシアの看護師と比べて、分析能力がすごいと思います。」

彼女の第一声から語られたのは、日本の看護師の患者の病状から処置を判断する分析能力についてでした。インドネシアでは、看護師が患者の病状を診て処置を考えたりすることは少ないです。また、インドネシアと日本の看護に対する考え方は異なっていて、日本の看護師の看護範囲はインドネシアの看護師より広く、経験と知識がとても重要なこと。

ウィディさんは、日本語の勉強と同時に看護師としての経験や知識の習得のため、今日も現場で奮闘しています。



熱心に語るウィディさん